



# かいた病院だより

## 第21号

発行 本田宜久  
編集 広報委員会  
連絡先 TEL 09496-2-2131



## 接遇研修について

今年2月に病院全体で医療サービスの質を継続的に向上させる活動（TQM活動）をスタートいたしました。今年のテーマは『おもてなしのこころ』です。現在8サークルがテーマに沿った「カイゼン」活動に取り組んでいます。

その中で今回事務部は、「事務部接遇の標準化」をテーマに取り組んでおります。その一環として、6月24日（土）に麻生医療福祉専門学校の講師をお招きし、事務部全体で接遇研修を受講しました。

いざ、研修を受けてみると自分は周囲に対して、気配りした立ち振る舞いができていると思っていましたが、ほとんどできていないことに気づかされました。研修中に講師の方が「接遇とは相手に好ましいと思われること」と言われた際に「自分はできている」ではなく「相手にどう思われているか」が一番大切であることを学びました。

また、実際の患者さんを想定した来客対応や電話対応のロールプレイングでは、患者さん役と職員役、評価者の3人に分かれて、それぞれ異なった視点から、良かった点や悪かった点を確認し、お互い評価し合いました。自分では気づけない対応時の話し方や聞き方を指摘してもらうことで、今後どうすれば良くなるのかを話し合うことができました。

これからも接遇改善によりサービス向上を目指し、患者さんが満足していただけるよう、日々努力を重ねて参ります。

事務部 藤川 俊介

# 時事通信

## 熱中症について



### みなさん、熱中症はスポーツマンの病気だと思いませんか？

熱中症はご年配の方々の【日常生活の中】で起こることも多く、むしろその場合は若年のスポーツマンの熱中症よりも重症になることが多いと言われています。

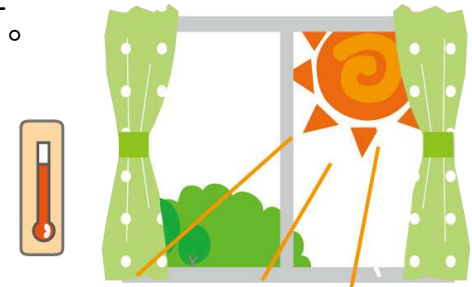
- 窓をよく閉めている
- エアコンは使わない
- 水分はあまり飲まない
- お一人暮らし

の方は特に危険性が高いと言えます・・・ご注意くださいね！

「暑い、ぼーっとする」は熱中症のキーワードですが、感染症・代謝の病気などでも同じような症状になることがあります。

熱中症だからすこし休んで涼めば大丈夫と自己診断をせずに、**【症状がひどくなる前に誰かを呼んで】**近くにいてもらってください。

周りの方は、いつもと違ってきつそう、受け答えがおかしいと感じたら、必ず一緒について受診させてくださいね。



参考) 熱中症診療ガイドライン 2015

熱中症の実態調査 - Heatstroke STUDY 2006 最終報告-

家庭医 渡邊 功

## 学会発表

当院は、4月から7月の間に以下の演題に関することを各学会で発表しました。学会発表は、チーム医療の取り組み成果を他の医療従事者へ知っていただくものです。今後も院外に向けた発表を病院全体として続けていきたいと思えます。そして、この活動の成果を日々の地域医療に活かせるよう努力していきます。

### 【在宅医療センター】

- 1.在宅看護師のキャリアアップからの障壁の一考察 ～看護師の語りから～

看護師 山中 ゆかり

- 2.施設や訪問看護ステーションへの医療材料・衛生物品受払いフロー改善の取り組み

事務 板倉 真紀

### 【診療部】

- 1.キャリアアップに最適なフェローシップ 内科認定医・専門医 家庭医療専門医取得後の3つの選択 ①臨床研究 ②経営管理 ③在宅医療

院長 本田 宜久

- 2.在支病における患者希望を反映した在宅看取り率の測定

医師 吉田 伸

### 【リハビリテーション部】

- 1.訪問リハビリにて脳性麻痺患者への社会参加の取り組みについて  
～パソコンでの絵画を地域文化祭に出展～

理学療法士 高橋 友二郎

- 2.当院における訪問リハビリの利用者の現状

理学療法士 柏木 淳

## BLS 研修

6月21日から23日の3日間に分けて、看護師以外の職員を対象に一次救命処置(BLS)の研修を開催しました。BLS 認定資格者による指導により、一次救命処置の方法をわかりやすく学ぶことができました。この研修を行っていることで、いざという時の自信に繋がります。急変時は周囲の人を多く集め、直ちに呼吸・脈拍の確認を行い、意識がなく呼吸・脈拍どちらも確認出来なければ直ちに心臓マッサージが必要です。そして、駆けつけた方からAEDを受取り装着させ、安全確認を行いながら救命援助しなければならないため、チームワークがとても重要です。

今後も研修を重ね、穎田病院の職員であることを自覚し、もしもの場面で地域貢献できることを目指したいと思います。



## ナースが行うリハビリについて

### あなたの帰りたい！！を応援します

地域包括ケア病棟では、ご病気の治療が終了した後、患者さんの体力に合わせた退院調整を行います。ご家族と思い出いっぱいので安心して生活ができるよう、入院中から退院後の生活を看護師と一緒にイメージしながら退院調整を行います。そのため、早く在宅復帰できるように、リハビリスタッフだけではなく看護師も日常ケアの中にリハビリテーション（以下：ナースリハ）を積極的に取り入れています。長い時間を病棟で生活する患者さんの機能障害や日常生活動作（ADL）の改善を目的とし、看護師・看護助手のチカラでADLを良くしたいという思いからナースリハメニューをスタッフが考え実践しています。

また、退院のために一生懸命ナースリハに取り組む姿や皆さんの笑顔・ご家族の笑顔が私たちスタッフにとって、最高のサプリメントとなっています。

早く帰りたいですね  
一緒に頑張りましょう♪



これからも入院生活と在宅生活の架け橋となる病棟として『時々病院・ほぼ自宅』を目指し支援していきます。

## 学生さんの実習受入

当院では、ご対応できる範囲で学生さんの実習受入を行っております。5月から7月の期間で3名が約1ヶ月間、当院を実習病院として選んでいただきました。学校や学年、異なった職種（医療事務・臨床検査技師・医師）でしたが、学生さんにとって学び多き実習となっていればとても嬉しく思います。最初の頃は緊張しているようでしたが、徐々に慣れてきていました。新鮮で謙虚な気持ちを持った学生さんからパワーをいただき、当院スタッフとしても実りある時間を共有できました。学生の皆さんの未来のご活躍に期待しています。



学校名：麻生医療福祉専門学校  
名 前：野上さん  
職 種：医療事務  
期 間：5/15～6/2



学校名：純真学園大学  
名 前：福田さん  
職 種：臨床検査技師  
期 間：6/5～6/30



学校名：九州大学  
名 前：渡邊さん  
職 種：医師  
期 間：6/12～7/5

## 消防・避難訓練

6/20（火）14：00から家庭医療センター（外来）で消防訓練を実施いたしました。例年夜間の病棟を火元想定で行っていましたが、今回は昼間の火元想定で初めての取り組みでした。家庭医療センターで万が一、火災が発生した場合は、診察や処置、検査など行われている最中に患者さんを避難させないといけません。診察室や検査室など部屋数が多いため、スタッフや患者さんが部屋の中に閉じ込められていないか確認を行うことが必要です。

午後の診療時間と重なり、混み合った中での実施となりましたが、皆さまのご協力のおかげで速やかに行うことができました。

毎回訓練のための訓練にならないよう心がけていますが、火災が発生しないことが第一です。スタッフひとりひとりが防火意識を持ち、日々の医療活動を行って参ります。

次回訓練の火元想定場所は未定ですが、12月を開催予定としておりますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。



## 【診療担当表】※平成29年7月18日現在

		月	火	水	木	金	土
総合診療科(午前)	初診	吉田 長谷川 松本 西園	一ノ瀬 北野 中安	金 木村 渡邊	吉田 中邑 松本	茂木 渡邊 武末	当番制 (午前)
	再診(予約)	新道 安田 武末	吉田 長末	茂木 西園 松本	檜田 金 赤岩	井村 一ノ瀬 小田 大杉(月1)	
総合診療科(午後)	初診	檜田	吉永/望月	中安	新道	西園	
	再診(予約)	本田	深町(15:30まで)	-	本田	-	
小児科	午前	家庭医	家庭医	家庭医	家庭医	家庭医	
	午後	一ノ瀬	吉永	中安	新道	西園	
ワクチン(午後)		松本 (一ノ瀬)	-	-	渡邊 (金)	-	
外科		家庭医	家庭医	家庭医	家庭医	家庭医	
予約外来	整形外科 (14:30~16:30)	-	非常勤医 ※紹介制	-	-	非常勤医 ※紹介制	
	内視鏡	-	茂木 (上部のみ)	木村	-	-	
	甲状腺 (第2水曜・午前)	-	-	萬代	-	-	
眼科		-	-	山中	-	-	
耳鼻咽喉科 (午前)		-	-	-	-	非常勤医	
禁煙外来		松本(午前)	-	-	渡邊(午後)	-	
腎臓内科 (午前)			中下	中下	中下	中下	
婦人科 (午後)		-	-	-	松岡 西園		

## \*診療受付時間\*

- ・午前：8:30~11:30(月~土)
- ・午後：14:00~16:30(月~金)

## \*休診\*

- ・土曜(午後)、日曜、祝日、年末年始

## \*お問い合わせ\*

医療法人博愛会 穎田病院

〒820-1114福岡県飯塚市口原1061番地1

TEL 09496-2-2131(代表)

## 短時間通所リハビリテーション 『りらいふ』 開設から2ヶ月のいま

『りらいふ』を開設から2ヶ月が経過しました。『りらいふ』では、運動開始前にご利用者の皆さんでストレッチを行っています。開設当初は少人数でしたが、人数も増え、大きな輪ができて、ご利用者さん同士お互いの近況を話したり、笑いあったりしているのを見ると『りらいふ』を開設して良かったと思います。

5月開設当初からご利用になっている患者さんの中には、「筋力やバランス能力が向上して歩行状態が良くなり散歩ができるようになった」、「庭仕事ができるようになった」など喜びの声も多く聞かれるようになりました。

今後も『りらいふ』だからこそ行えるリハビリテーションを提供し、利用者さんに満足感・充実感・達成感を感じてもらい、発展させていきたいと思っております。

リハビリテーション部 理学療法士 足立 雅俊



## ステーションタイム

在宅医療センターでは、日頃より連携させて頂いている訪問看護ステーションを対象に、医師、訪問看護師、ソーシャルワーカーとの面談を毎月2回開催しています。訪問看護ステーション毎に時間を設定し、関わっている患者さん・ご家族さんの情報共有や問題解決、今後の連携に関する相談など、様々なお話をさせて頂いております。

今回は5事業所の訪問看護ステーションの方に参加して頂き、在宅でのリハビリに関して質問があったので、訪問リハビリのセラピストより助言を行いました。また、参加された訪問看護ステーションからの感想として、「主治医と話せるので良かった」などが聞かれております。

今後もステーションタイムを通じて、訪問看護ステーションと顔の見える関係づくりを構築し、今まで以上に連携強化できるよう開催していきたいと思っております。

